

**日本NGO連携無償資金協力事業**  
**ルサカ市結核対策強化事業**

1. **事業の実施期間：** 平成 20 年 2 月 13 日～平成 21 年 2 月 12 日

2. **ザンビア共和国ルサカ市**

3. **事業の内容と実施成果**

この事業は、ルサカ市保健局の結核対策能力の強化を通じて、結核蔓延の防止に寄与することを目的に、同市の 2 つの保健センターに結核コーナーを建設すること、公的保健機関を対象とした結核データ管理研修の 2 つに焦点をあてて実施された。

ザンビアでは HIV/AIDS の蔓延により、結核患者数及び結核に起因する死亡者数も急激に増加している。結核は HIV/AIDS 患者が最も発症しやすい感染症で、適切な治療が行われない場合死に至る病であり、1984 年比で 4 倍に増え、世界平均と比較しても、結核患者数及び結核に起因する死亡者数は 3-4 倍と非常に多い。同国保健省は HIV/AIDS と結核に包括的に取り組んでいるが、国際援助は HIV/AIDS 支援に集中しがちで、結核対策は遅れている。結核患者が集中する首都ルサカの公的保健機関では、結核専用施設がなく、一般患者への感染リスクが非常に高い。また当該地域を管轄する保健機関の結核データ管理は不十分であり、結核治療サービスの環境改善が急務となっていたため、当該事業の実施に至った。

結核コーナーの建設については、ルサカ市の二つの保健センターに結核外来治療コーナーを建設し、スタッフ及び治療サポーターを対象に研修を実施し、同コーナーの運営を支援した。従来の処置は通気性が悪く、常に混み合い、受付や会計という誰もが通る場所で行われていた。事業実施により、新たに外来棟が一棟ずつ建設され、カウンセリングと処置のための個室が完備されたことで、患者のプライバシーが守られるようになり、また注射や採血用のスペースが確保されるなど、安全かつ衛生的な環境の下で結核治療サービスが提供されるようになった。一般患者への感染リスクが大幅に軽減されただけでなく、待ち時間も短縮された。

公的保健機関による結核データ管理の状況改善については、結核治療サービスを提供する 23 の保健センターとザンビア教育大学病院の看護師を対象に、結核データ管理の研修を実施したことにより、カルテの紛失、カルテと登録台帳の不整合、データの記載漏れ等、研修前に見られた問題が改善された。さらに、保健局の結核課・情報管理課の職員を対象とした結核データ分析研修や情報交換の結果、職員の能力と関係部署・機関間の連携を共に強化することができた。

以上の活動により、安全かつ衛生的な結核専用センターが建設され治療に適した環境が提供されたこと、公的保健センターのデータ管理能力が強化された等、期待された成果が発現し、結核蔓延の防止に貢献するという目的は達成されたとと言える。

今後は、結核コーナーの運営状況や結核データ管理状況を定期的にモニタリングし、必要に応じ助言や支援を実施したいと考えている。

4. **日本NGO連携無償資金精算額：米貨 165,393 ドル**